



特集

平成26年3月に 退任される皆様のご紹介

退任のご挨拶

3月末日をもって山口大学医学部を退任し、4月からは国立大学法人山口大学の学長に就任いたします。これまで、医学部附属病院で仕事をさせていただき、大過なく退任できますのも、多くの皆様のおかげと心より感謝しております。

昭和51年3月に山口大学医学部を卒業し、消化器外科医を目指してスタートをきりました。卒業以来、1年間の留学期間を除き33年間の長きに渡り、当院で患者さんの診療に関わり、平成8年からは第2外科の教授を拝命し、患者さんに最先端の治療を安全に提供することに心掛けてまいりました。

消化器外科の領域も革命的な変化があり、大きくお腹を開けてする手術から腹腔鏡や胸腔鏡を用いた傷の少ない、体に優しい手術が行われるようになり、いよいよロボット手術も現実なものになりました。

第2外科の「がん免疫細胞療法」は先進医療として提供されていますが、現在では「がんワクチン療法」や「細胞療法」を含めた

がん免疫療法が第4の治療として世界的に期待されるようになり、当院でも広く患者さんに提供できるための臨床試験が行われています。

平成22年〜25年の間、病院長として皆様と共に歩む機会を拝命しました。病院機能の強化のために医療人育成センターを立ち上げ、研修医のための研修宿泊施設「白翔館」が設置され、ドクターヘリの本格運用も開始されました。さらには新棟建設のための検討を重ね、いよいよ平成27年度には着工予定となります。ロボット手術の開始、最新の放射線治療の導入など附属病院の機能はさらに充実しており、山口県唯一の特定機能病院としてその期待に応える発展がなされるものと確信しております。

個人的には患者さんとの直接の関わりが無くなり、手術を含めた医療から離れることに寂しい思いがありますが、別の立場から山口大学医学部および附属病院の発展に貢献できればと考えておりますので、これからも宜しく申し上げます。



大学院医学系研究科
応用分子生命科学系学域
消化器・腫瘍外科学分野（第2外科）
教授 岡 正朗

退任のご挨拶



大学院医学系研究科
情報解析医学系学域
プロテオーム・蛋白機能制御学分野
教授 中村 和行

本年3月末を以って選定定年(63歳)退職いたします。

私は、1976年に本学医学部医学科を卒業し、同年に同医学部の生化学第一講座の助手として奉職しました。親和電気泳動法を用いた脱水素酵素の研究で医学博士号を取得した後、1981年から83年まで米国NIHの国際研究員として留学し、蛋白質の翻訳後修飾による酵素活性調節機構の研究で成果を得ました。帰国後、同講座で竹尾教授とともに二次元親和電気泳動法を駆使して血清中の抗原特異抗体の完全分離と多様性及び抗原親和性の成熟過程を明らかにしました。その間、生化学実習等を通じて医学科学生の実践教育を担当しました。1992年に同講座の教授を拝命し、22年間医学教育と研究に邁進してきました。教養部改組の大学改革の中で1994年から学生部委員(現在の入試委員、教務部委員、学生部委員、大学院委員の三位一体)として医学科学生の6年一貫教育カリキュラムの策定にあたり、専門教育に単位制を導入しました。基礎から臨床まで切れ目のない実践的な医学教育をするために自己開発コースなども導入しました。課外でも学生と「よく学び、よく遊び」しました。本学附

退任のご挨拶



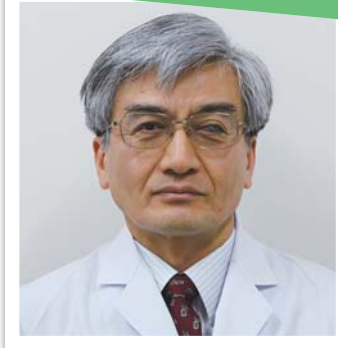
大学院医学系研究科
情報解析医学系学域
医療情報判断学分野
教授 井上 裕二

本年の3月で退職することになりました。私は昭和50年に本学医学部を卒業し、本学で内科研修を、続いて奈良県にある天理よろづ相談所病院で研修を受けました。研修後は臨床病理部に所属し、血液学、生化学等の検査診断、生検や剖検の病理診断を行うなかで臨床検査のシステム作りに携わりました。診断支援や診療業務にコンピュータを活用する情報社会の到来を予感し、京都大学病院医療情報部を経て、平成元年に医療情報部の立ち上げのために本学に戻って参りました。

開設当初は病院長が部長、部員は私一人でした。病院として一体化されたシステム運用の基盤創りが課題であり、診療科や診療部門がシステム導入するときのベンダーとの仲介、医療機器の購入にあわせて張り巡らされた通信網の統廃合、診療データを蓄積するデータベースの設計支援等々、当時の診療科長や部長に優しく、時に厳しく指導頂いたことを思い出します。医療情報部が省令化されたのは平成

最後に、退任後は本院の重要な教育関連病院で診療に携わります。これまで以上に皆さまのお世話にならねばなりません。よろしくお願ひいたします。

退任のご挨拶



医学部附属病院
検査部
臨床検査技師長 中村 準二

本年の3月で定年退職いたします。私は、昭和50年3月に本学医学部附属臨床検査技師学校卒業と同時に医学部附属病院検査部に就職し39年間大変お世話になりました。

故・宮地隆興部長から「コンピュータの臨床検査システム担当をやってみないか?」と引き込まれるように、以来、今日まで附属病院の検査情報のシステム化とともに歩んできたように思います。昭和56年、臨床検査システムの開発と運用を最初に、昭和62年に医療情報システムが入った時には、臨床検査システムとオンラインで連携を取り、検査オーダーと検査結果の参照が医療情報システムから可能となり、診療支援の礎ができました。平成11年から、日野田裕治部長の下で検査部の管理運営を担うことになり、部長からは、技師長としての心得や管理運営についての的確なご指導をいただき、多くのことを学ばせていただきました。検査業務の効率・省力化と迅速な結果報告のために、検体検査部門のワンフロアー化が行われ、これに合わせるように、総合検体検査システムが更新され、外来患者さんの採血と検体搬送自動化システムによる測定で多くの検査項目の結果が1時間以内に電子カルテで参照できるようになりました。平成16年4月からは、法人化により変則2交代勤務になり、24時間365日いつでも検査・輸血が利用できるようになりました。どれも大きな思い出です。大勢の方々に支えられ、無事退職を迎えられることを本当に感謝しています。附属病院の益々のご発展と、皆様のご活躍とご健勝をこころよりお祈りいたします。

退任のご挨拶

医学部附属病院
感染制御室
看護師長 小坂まり子



写真は、感染対策に興味を持ち始めた、ICU勤務の時のものです(小坂看護師長 左)

「ありがとうございました」3月をもちまして、定年退職をいたします。本当に多くの方のサポートをいただき、この日を迎えることができました。と感謝しております。昭和50年に山口大学医学部附属病院に就職させていただきました。途中3年間のブランクがありましたが、36年間勤めさせていただきました。まさか私が定年まで働けるとは思っておりませんでした。外科勤務のころ、先輩と比べ、私の観察力がとても乏しいことを痛感し、私には命にかかわる看護という職業に向いていないと思い、結婚・出産を機に一度退職いたしました。家で子育てに悪戦苦闘している時に、患者さんのご家族から励ましの言葉をいただき、自分でも何かしら患者さんの役に立てていたのだと思えるようになり、そんな時に、当時の看護部から声をかけていただき、昭和62年に再就職し、現在までの27年間、「看護が好き」という思いで定年まで働いてこられたように思います。

唯一の心残りがあるとすれば、平成18年から8年間感染管理に携わってきたなかで、手指衛生遵守率をより向上させることができなかつた事です。今後は、優秀な先輩たちがさらに頑張ってくれると信じています。最後に、今まで好きな仕事をするために多くの協力をしてもらった家族に感謝するとともに、山口大学医学部附属病院および看護部のますますのご発展をお祈りいたします。

本当にありがとうございました。

退任のご挨拶



医学部医事課

事務職員 増田 陽子

卒業をして内科研究室で4年間お世話になり、その後少しブランクがありました。が縁あって病院管理課、医事課、現在の診療連携室の一員として勤務させていただきました。

強く心に残っている思い出としては、外来棟の引越に伴う電算化で、当時の男性職員は日々徹夜で準備されていたことです。今では電算化になっているレセプト請求も手書きの頃は、いつも0時頃まで皆で頑張ったものです。

平成11年9月の台風も大変なことでした。私自身の車も浸水し、どのようにして医事課の部屋にたどりついたかも恐怖で覚えておらず…医事課の部屋まで入ってきた雨水を、当時の病院長がかき出されているのには頭が下がる思いでした。あの時も1日も休診することもなく業務ができたことは職員全員の団結力だと思っています。

37年間前半は大先輩に支えられ、後半は若い方々に助けられ、事務部だけでなく、今の連携室もそうですが看護師さんを始め、たくさんの方々のおかげでいただき働けた事に感謝しております。有難うございました。

今後の附属病院の益々のご発展と皆様のご活躍、ご健康をお祈り申し上げます。退職後も、しばらくは勤務すると思えますので宜しくお願い致します。

平成25年度 定年退職者の皆さま

長きにわたりご活躍され、この春に退職される先生方・職員の皆さま本当にありがとうございました。



皆さま
お元気で!

医学系研究科

- ✿ 中村 和行 情報解析医学系学域
教授 プロテオーム・蛋白機能制御学分野
- ✿ 高良由香里 応用医工学系学域
技術専門職員 病態制御内科学分野

医学部附属病院

- ✿ 中村 準二 臨床検査技師長/検査部
- ✿ 小坂まり子 看護師長/感染制御室
- ✿ 村田三代子 副看護師長/第一病棟十階東

医学部

- ✿ 阿部 文生 事務部長/事務部
- ✿ 増田 陽子 事務職員/医事課

News

ホットなニュースをご紹介します

山大病院 NEWS

2014
1月

「恋するフォーチュンクッキー」で宇部市をPR

AKBの大ヒット曲で宇部市をPRしようと、宇部商工会議所や市内企業のボランティアで組織された「恋するフォーチュンクッキー 山口県宇部ver. 制作実行委員会」の動画制作に本院の職員や山口大学マスコット・ヤマミィが参加しました。

「官・学・民」が一体となって連携を図り、宇部市の魅力をPRするため、市内の各所で撮影が行われ、本院では「ドクターヘリ」の前で、ヤマミィと職員と一緒に笑顔で踊りました。



編集後記

この度、「病院だより」の担当になりました。日々医学部、附属病院の方々と出会うなかで、本当に多くの方が活躍されていることを知りました。この春で退任される皆様、長い間本当にお疲れさまでした。旅立ちの春。出会いの春。皆様にとって、素敵な春が訪れますように。

編集担当(総務課総務係: K.T、N.N)

■発行者情報

企画発行: 山大病院だより編集委員会
事務担当: 山口大学医学部総務課総務係
TEL: 0836-22-2007
E-MAIL: me202@yamaguchi-u.ac.jp